

「原子兵器の禁止を全国の医師各位に訴える」 (54, 4/10)

今やビキニ水爆実験は、全世界の関心の焦となり、この実験におけるアメリカの不当な態度と、これに対する吉田政府の弱腰は、万人の憤激するところがあります。これに対して全國民は党派を超越して続々と立上がりつつあります。

これこそ数度にわたる原子兵器の被害をうけてついに爆発した日本國民の怒りであり、政治的な偏見や武力による威圧などによっておさえつけられるものでは決してありません。われわれ日本國民はこの事件を契機として捲き起った民族の意識をもって、この非人道的な原子兵器の廃止、実験の即時中止ならびに損害の全面的な補償の目的達成に結集しつつあります。

特にわれわれ医師は、人類の生命と健康を守らなければならない強い使命を感じ、この三つの要求の貫徹こそ最も重要な任務であると考えると同時に、日本人の医師としての立場からもだまっておれないのであります。現に今日被害者の診療にあたられた日本人医師団は、被害者とともにアメリカの共同調査の申入れの裏に治療以外の目的を感じて、申入れを謝絶して日本の科学者の力による自主的な診療を進められておられます。

以上の趣旨にもとづき、われわれは、全日本の医師各位が力を結集し、この三つの目的達成のため國民とともにこの世紀の民族運動に蹶起せられ、あわせて世界中の國々、特に原子兵器保有國の間で原子兵器禁止のための話し合いを即刻実現させるために、世界中にはたらきかけられることを心から要望し、その実現を期待し、かつ新日本医師協会はその先頭に立つことを誓う次第であります。 _